

Life Report

佐世保の魅力を“地産地笑”でお届け 「かつちえて落語つ子」活躍中!

佐世保市出身の放送作家・海老原靖芳さんが主宰する「かつちえて落語つ子」。現在、小学3年生から社会人まで13名が参加しています。今回は、子ども噺家の皆さんの落語にかける思いをレポートしました。

佐世保の方言やネタを織り交ぜながら、大勢のお客さんの笑いをさらっていく子どもたち。主宰者の海老原靖芳さんの指導のもと、8年前にスタートした「かつちえて落語会」の落語つ子の皆さんです。

「少しずつ難しい噺にも挑戦して、たくさんの人に笑いを届けたいです」と意気込むのは小学5



「落し物」を披露する古川万葉さん。



「長い噺」を披露する藤田乙芭さん。



「ものしり女将」を披露する古川咲弥さん。

年生の藤田乙芭(おとほ)さん。今年4月に入ったばかりのニューフェイスで、熱心に稽古に打ち込んでいます。

「お客さんの表情を見ながら、間の取り方や言い回しを考えて噺を進めていくのが楽しいんです」と話すのは、落語つ子に入ってから今年で7年目となる佐世保高専3年生の間京華さん。落語と

の出会い、通っていた小学校で参加していた「お笑い落語クラブ」。今では自分の持ちネタを複数持つまでになりました。

その一つ「言葉づかい」は、パーガーシヨップを舞台に、店員のおとぼけに対して言葉遣いに厳しいお客がツッコミを入れていくお話。北中2年生の朝長心

さんは、小学3年生のときに友達と一緒に落語つ子に入りました。

「お客さんを楽しませて、自分も楽しめるような噺をすることが目標です」と語る心さん。落語を通じて佐世保のことを伝えるため、日夜練習に励んでいます。



「言葉づかい」を披露する間京華さん。

そのほか高専1年生と小学3年生の古川咲弥(さくや)・万葉(まよ)姉妹をはじめ、計6人の落語つ子が、佐世保を題材に考えられた「地産地笑」の創作落語を繰り広げる落語会が今週末、開

催されます。●「夏休み子ども落語会」は8月26日(日)午後2時から3時まで、市立図書館3F視聴覚室にて開催。出演および演目は古川万葉さん「落し物」、藤田乙芭さん「長い噺」、朝長心さん「続・長い噺」、古川咲弥さん「ものしり女将」、間京華さん「言葉づかい」、富永将暉さん「眠れない夜」。観覧無料、申込不要。詳しくは22・5618(同会場)まで。